

治いに発達しました。わずから数年で二見城は廃され五條新町は天領となりまりましたが、その後商家町・宿場町として発展しました。



文化財ボランティアさんの説明

五條と新町はそれぞれ異なる成立起源をもつことから、江戸・明治・大正・昭和と、民家の移り変わりの様子を見ることが出来ます。混在している状態を良しとして、建物の時代時代にあった修理修景を行うという点が、統一された高山の町並み保存とは異なる点です。



時代が混在する印象的な町並み

橋上駅舎と高山線をまたいで成式典が行われ、翌日から利用が始まりました。

高山市では平成10年から、駅東西の一体的な整備を図る高山駅周辺土地区画整理事業を開始しました。

駅舎・自由通路は平成26年から建設工事が進められ、昭和9年の開業以来、南北の線路で分断されていた東西地区が繋がりました。これまで駅舎は線路の東側にあったため、西側へ行くためには迂回する必要があるが、かねてより東西をつなぐ通路の設置が求められてきました。

式典で國島市長は、「ただけでなく、文化や経済が交流できる、使いやすい、楽しい



匠通り展示物前の大勢の人

なお、自由通路・駅舎東口と西口には、一昨年12月の公募によって寄せられ選考された愛称が決定しました。数々の「飛騨の匠の技」が展示されている自由通路には匠通り（たくみどおり）

思い出が残る駅・通路にしていきいたい」とあいさつしました。

駅舎はイメージを一新しました。天井や壁には、飛騨産のヒノキがふんだんに使われ、自由通路には、高

山祭の屋台の一部が実物大で飾られるなど、利用者の目を楽しませていきます。



※旧駅ロゴ

平成の大合併により高山市の東端と西端に位置することになった乗鞍連峰と白山連峰を象徴して、東口は乗鞍口（のりくらぐち）、西口は白山口（はくさんぐち）と名づけられました。

乗鞍口 白山口

大勢の観光客が乗鞍口側は、外観は古い町並みをイメージした格子で覆われています。急増している訪日外国人観光客の利用を想定し、情報案内テ



新設された白山口

案内デスクやカフェが設置されました。今後、回廊広場が整備される予定です。完成から約4か月、国内外の駅利用者をはじめ、新たな人の流れが生まれました。今後は、トイレや駐輪場・交流広場・税務署や高山公共職業安定所などが整備され、駅舎が整備されるのを待ちたいと思います。

備される予定です。これまで、駅裏と呼ばれていた西側地区は、ずいぶんと様変わりしました。駅改修を見据えてファストフード店・コーヒーチェーン店・スーパーマーケットができました。駅の東側に集まっていたバスの発着場が白山口にも分散されました。駅の西側には、飛騨高山高校・高山工業高校・高山西高校の各高校があります。これまで余儀なくされていた迂回が必要なくなり、通学が便利になりました。

完成から約4か月、国内外の駅利用者をはじめ、新たな人の流れが生まれました。今後は、トイレや駐輪場・交流広場・税務署や高山公共職業安定所などが整備され、駅舎が整備されるのを待ちたいと思います。



文化財が、一気に33の無形文化遺産に記されることになったので、先にも単独で記載された「京都祇園祭の山鉾行事」と「日立風流物」の2件は名前が埋もれてしまったわけですから、保存、会や地域の人たちの心には、複雑な思いがもたれます。

登録効果！？

12月2日・3日に埼玉県秩父夜祭（ちちぶよまつり）が開催されました。38万人が集まったそうです。これは無形文化遺産登録の影響に他ならないでしょう。世界的に注目される影響はこれほどまでに大きいのではないかと見えています。

「鉾・屋台行事」の提案でも、広報提案の手法によるグループ化が行われました。当初「全国山・鉾・屋台保存連合会」の正会員である33の団体を、指定順にしたがい1年に2つずつ提案する方針だったようです。「京都祇園祭の山鉾行事」と「日立風流物」がその第一弾として無事に記載。2回目の提案に際し「秩父祭の屋台行事と神楽」と「高山祭の屋台行事」に順がまわってききましたが、あえなく情報照会となってしまいました。そこで方針を変更。グループ化して一括提案することになったのです。

記念行事開催

記載が決まった翌日、高山市では高山市役所で記念行事が行われ、日枝神社・御旅所と八幡神宮を出發し、市内小学校代表による後、市内小学校代表による宣言、鏡開き、獅子舞などがあり、会場に詰めかけた約千人の市民や観光客で登録を祝いました。

登録された33の文化財は、県内の「古川祭の起し太鼓・屋台行事」「大垣祭の軸（やま）行事」も含まれています。古田岐阜県知事は、「相互に連携を取りながら、アピールしていきたい」と喜びを語りました。

宇陀松山地区

飛鳥時代に「業狩り」と呼ばれる宮中行事が催されたのが現在の宇陀地区で、戦国時代に築かれた松山城の城下町として栄えたのが宇陀松山（うだまつやま）地区の始まりとされています。

宇陀市は、奈良県北東部に位置し、平成18年宇陀郡大宇陀町・菟田野町・榛原町・室生村が合併して誕生しました。同年7月、宇陀松山地区は宇陀市松山重要伝統的建造物群保存地区に選

かど驚き・期待が寄せられる一方で、駐車場がない・食事できない・宿泊が予約できない・といった受け入れ態勢が大きな課題の一つであると気がかかれます。

また、無形文化遺産に登録された文化財に限らず、少子高齢化・過疎化などによる祭礼の担い手不足が全国的に深刻です。登録を機に、地域の活性化や観光振興につなげる取り組みが急がれます。

高山市景観町並保存連合会 視察研修

平成28年度 視察研修
日程／10月29日・30日



宇陀松山で最も古い山邊家住宅

周辺には、国宝室生寺の五重塔などの遺跡や文化財が数多く残されています。



室生寺山門前で集合写真

宇陀市は、奈良県北東部に位置し、平成18年宇陀郡大宇陀町・菟田野町・榛原町・室生村が合併して誕生しました。同年7月、宇陀松山地区は宇陀市松山重要伝統的建造物群保存地区に選

五条新町通り地区

五條新町伝統的建造物群保存地区（平成22年12月選定）は、南大和の中心都市。五條市の吉野川北岸に位置します。五條は、伊勢・大和・紀伊を結ぶ五本の街道の陸運、豊富な水を運んだ吉野川の水運

により、古くから人と物資の流れが交差する交通の要所であり、



近世には伊勢街道の宿場町として栄えました。

新町は、松倉重成が関ヶ原の戦いに功績をあげて城主になった二見城と五條とを結ぶ900m程の道

※旧駅のロゴは、看板などに引き続き使われています